

2026年度

包装専士講座ご案内

CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL

包装の専門家を育てるわが国最高レベルの講座

現在と将来の課題に重点をおいた実践的な内容
実践能力をつける少人数制、マンツーマン方式による指導



受講募集期間

2月2日(月)～4月24日(金)

募集コース

輸送包装コース(第39期) TRANSPORT

包装材料コース(第39期) MATERIALS

食品包装コース(第40期) FOODS

医薬品包装コース(第38期) MEDICINES

期間 | 2026年6月～2027年3月 主催 |  公益社団法人日本包装技術協会

包装専士講座のご案内

包装専士講座は＜包装の専門家＞を育てるわが国最高レベルの講座です。

本講座は、包装に携わる人々に求められる知識や技術が体系的、科学的に整理され、かつ実務的な内容を提供しており、実務経験の豊かな講師陣による実践的な講義、理論づけられた講義、事例研究、実際現場での実地研修など、本講座ならではの多彩な講師陣と教科構成となっております。

また、受講生は少人数制（各専門コース15名以内）とし、マンツーマン方式による指導の徹底を図っております。

本講座で培われる講師と受講生、受講生同士の‘情報交流ネットワーク’は本講座を修了した者だけが得ることのできる財産であり、包装分野における今後の問題や課題に挑戦していくためのパワーの源泉となっております。

本講座の修了者（＝包装専士）は、企業内及び包装界のリーダーとしての活躍が期待され、産官学からの分野のみならず消費者の方々からも高い評価をいただいております。

技術の向上発展、企業の繁栄は、絶え間のない人材の育成にあります。

この機会に、包装分野におけるより高度で創造的豊かな人材の育成を目指して、本講座への関係者各位のご推薦をお願い申し上げます。

2026年度 包装専士講座研修委員

委員長	小野 拓邦	東京大学名誉教授
副委員長	神崎 敬三	東洋製罐グループホールディングス(株) 参与
委員	五十嵐 哲	工学院大学名誉教授
〃	青木 和夫	日本大学名誉教授
〃	川瀬 博士	味の素(株) 執行役 食品事業本部副事業本部長 食品研究所長
〃	長谷部 明夫	王子ホールディングス(株) 取締役専務執行役員
〃	藤原 大介	キリンホールディングス(株) 常務執行役員
〃	土屋 充	大日本印刷(株) 専務執行役員
〃	森長 祐二	DIC(株) 執行役員 パッケージングマテリアル製品本部長
〃	野口 晴彦	TOPPAN(株) 専務執行役員
〃	竹松 厚	ZACROS(株) 上席執行役員 ライフソリューション事業本部長
〃	近藤 浩	雪印メグミルク(株) 執行役員
〃	鈴木 彩子	ライオン(株) 取締役兼上席執行役員
〃	本松 裕次	レンゴー(株) 専務執行役員（上席）
〃	小籠 宣幸	公益社団法人日本包装技術協会 常務理事

※役職は就任当時のものです
（敬称略）

開催概要

募集コース	<p>輸送包装コース（第39期） 全産業界共通で1社に1名の輸送包装専門家を育成</p> <p>食品包装コース（第40期） 食品業界・関連業界を中心に食品包装専門家を育成</p> <p>包装材料コース（第39期） 包材業界・関連業界を中心に包装材料専門家を育成</p> <p>医薬品包装コース（第38期） 医薬品業界・関連業界を中心に医薬品包装専門家を育成</p>
受講期間	<p>(1) 2026年6月～2027年3月（10ヵ月間） * 講義時間 10:00～17:00</p> <p>(2) 開講式 6月4日（木）</p>
会場	<p>(1) 開講式・オリエンテーション、共通教科1 *合宿研修（1泊2日） 湘南国際村センター ①会場案内：逗子駅よりチャーターバス利用 ②宿泊室：シングル仕様 (神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39 TEL 046-855-1800) なお、諸事情により、会場の変更の可能性があります。</p> <p>(2) 共通教科2 公益社団法人日本包装技術協会会議室*</p> <p>(3) 専門教科（講義） 公益社団法人日本包装技術協会会議室* * 諸事情により、外部会議室に変更する場合があります。</p> <p>(4) 専門教科（実地研修）各実地研修会場</p>
プラスワン制度	<p>(1) ご希望により他の専門コース（実地研修以外）の1教科を無料聴講できます。</p> <p>(2) 開講日にプラスワン教科の申し込み書を配布いたします。</p>
聴講制度	<p>(1) 受講生でプラスワン制度の他に専門コースの聴講を希望する場合は、2教科まで受講することができます。</p> <p>(2) 包装専士で聴講を希望する場合は、3教科まで受講することができます。 * (1) (2) の聴講には聴講料がかかります（P2参照）。</p>
出欠について	全講義を通じて欠席は1日以内が合格の条件となります。
資格	<p>所定教科を受講し試験に合格した者には ＜包装専士＞（CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL）の称号が与えられます。*P3参照</p>

募集要項

募集期間	2026年2月2日(月)～4月24日(金)
募集人員	<p>総数 45名。</p> <p>*各コース10名を目安とし、総数45名に達し次第締め切らせて頂きます。</p> <p>*受講申込者が5名未満のコースは開講しない場合があります。</p>
受講資格	<p>(1) 包装管理士講座を受講し＜包装管理士＞の称号取得者で、所属事業所(代表者又は上司)の推薦がある者。</p> <p>(2) ＜包装管理士＞未取得者が受講する場合は、高校卒業以上の学力を有し、28歳以上で、包装関連業務に6年以上の経験を有し所属事業所(代表者又は上司)の推薦がある者。</p> <p>但し、研修委員会が特に認めた者はこの限りではない。</p>
受講料	<p>会員(会員会社): 税込合計 352,000円(本体 320,000円、消費税10% 32,000円)</p> <p>一般: 税込合計 555,500円(本体 505,000円、消費税10% 50,500円)</p> <p>但し、＜包装管理士＞は、10%割引となります。</p> <p>○受講料に含まれるもの: テキスト・資料、開講式～共通教科1の宿泊費(1泊3食*) *宿泊日の夕食、翌日の朝・昼食</p> <p>○受講料に含まれないもの: 受講にかかる交通費</p>
キャンセル料	<p>諸事情により受講をキャンセルする場合は、書面にて事務局へご連絡ください。尚、その際に下記によりキャンセル料を申し受けますので予めご了承ください。</p> <p>(1) <u>募集受付期間内に受講を取り止めた場合</u> 受講料は全額返金します。(振込み手数料は御社負担となります)</p> <p>(2) <u>募集期間後に受講を取り止めた場合</u> 受講料の一切を返金いたしません。未入金の場合には全額キャンセル料として頂きます。</p>
聴講料* *聴講制度	<p>1教科: 税込合計 11,000円(本体 10,000円、消費税 10% 1,000円)</p> <p>○聴講希望教科の講義日の2ヵ月以上前に申し込んでください。</p>

本講座は【人材開発支援助成金】の対象として認められる場合があります。
詳細は厚生労働省のホームページをご参照ください。

<p>申込方法</p>	<p>(1) 最終頁の「包装専士講座受講願書」に必要事項を記入し、顔写真を貼付して、下記の申込み先宛にご送付ください。</p> <p>(2) 受講願書をご送付の際、受講者の名刺を1枚同封してください。</p> <p>(3) 受講資格審査の上、関係書類、受講料請求書をお送りします。 * 受講料は請求書に記載の指定口座に5月15日（金）までにお振り込みください。</p> <div> <p><「包装専士講座受講願書」に記載の個人情報の取り扱いについて></p> <p>(1) 「包装専士講座受講願書」から受講生名簿を作成します。</p> <p>(2) この受講生名簿は包装専士講座事業運営に使用する他、包装専士講座講師及び受講生に配付します。その他、公益社団法人日本包装技術協会が主催する事業のご案内のために利用させていただきます。</p> <p>(3) この受講生名簿は、法令に基づく場合を除き、第三者に開示、提供しません。</p> </div>
<p>その他</p>	<p>(1) 諸事情により、プログラムの一部を変更することがあります。</p> <p>(2) 受講者・聴講者以外の方にはテキスト、その他資料は配付しません。</p> <p>(3) 企業訪問の实地研修については、訪問先の都合により同業種の受講生の方は受講できない場合があります。その際は欠席扱いとしません。</p>

お問い合わせ・申込み先

公益社団法人日本包装技術協会（JPI）包装技術研究所・包装専士講座事務局
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10階
TEL (03)3543-9351 FAX (03)3543-8970

合格後の称号と特典

- (1) 所定教科を受講し試験に合格した者に
＜包装専士＞（CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL）の称号を授与します。
この称号は、包装技術の専門家である証として権威づけられます。
- (2) 包装専士には、包装専士講座講師、包装管理士講座講師、J I S 委員会委員、各種研究会の委員など、活躍の道が開かれています。
- (3) 包装専士有資格者は日本包装専士会*に入会することができます。

* 詳細は、日本包装専士会ホームページをご参照ください。

包装専士講座 共通教科

■ 共通教科1

月 日	教科と内容	講 師
6/4 (木)	開講式・オリエンテーション	
	開講講演	東京大学名誉教授 農学博士 小野 拓邦 氏
	環境問題に対して ①環境問題の状況 ー生活者動向も踏まえてー ②国内外のサステナブル動向 ー政府指針及び企業の取組みー ③環境問題に対してTOPPANの提供できるサステナブルソリューション	TOPPAN(株) 生活・産業事業本部 SX推進センター センター長 川又 一浩 氏
	包装容器のGXは新たなシェアバランス競争で加速する ー 持続可能な社会に向けたリサイクリングの現状と課題 ー 包装容器は社会に必要不可欠な存在であるが、GHG排出削減や 廃プラ問題等の課題がある。 取り組みの現状と目指すべきゴールについて提言します。	東洋製罐グループホールディングス株 参与 神崎 敬三 氏
	包装の専門家をめざして (1) 専門コース別研修 (2) 異業種交流研修	包装専士講座事務局
6/5 (金)	包装ビジョンⅠ ー 包装開発における知的財産情報の活用 ー (1) 知的財産基礎 ①特許とは、②特許出願状況、③包装開発における特許の有用性 (2) 特許調査分析 ①特許調査分析基礎、②調査実習、 ③ IP ランドスケープ、④人工知能 (特に生成 AI) の利用	アイ・ピー・ファイン(株) 取締役副社長 平尾 啓 氏
	包装専士論文作成技法 ①論文とは ②包装専士論文作成要領 ③論文作成スケジュール	包装専士講座事務局

■ 共通教科2

6/15 (月)	包装ビジョンⅡ ー 世界の包装市場 ー ①PPWR の実施と世界の動き、②混とんとする世界情勢の中で世界 の包装企業の動き、③主な包装の事例を紹介、④包装材料、充填 包装機、包材加工機の動き、⑤日本の包装はどのように進むか。	住本技術士事務所 所長 技術士 住本 充弘 氏
6/16 (火)	包装ビジョンⅢ ー デジタルデバイスによるコミュニケーション変化と包装 ー 生活者接点のデジタルテクノロジーと包装技術の関わりをご紹介 ① IoT、スマートフォンが変える生活者の情報接点 ② デジタルテクノロジーにより変わる商品コミュニケーション ③ デジタルテクノロジーに対応する包装技術	TOPPAN(株) ビジネストラנסフォーメーション事業部 パフォーマンスマーケティング本部 第一部 横溝 浩一 氏
	包装ビジョンⅣ ー 循環型サステナブルパッケージング ー 環境・包装の歴史と対策(パリ協定、SDGs、資源循環戦略、プラ 新法等)を整理し、事例と PPWR を踏まえ循環型パッケージング を考える。	大日本印刷 (株) 研究開発・事業化推進センター 事業開発本部 食とヘルスケア事業開発 ユニット開発第3部 部長 多久島 和弘 氏

1. 輸送包装コース

月 日	教科と内容	講 師
6/29 (月)	【1】 実地研修 段ボール設計技法 ＊レンゴー(株) 包装技術センター(埼玉県川口市) ①段ボールの製造工程について ②段ボールの種類や形式・箱の設計方法について ③段ボール箱の特性と主な包装貨物試験方法について	レンゴー(株) 開発本部 包装技術第一部 東京包装技術第三課 担当部長代理兼課長 包装専士 東 則嘉 氏
6/30 (火)	【2】 実地研修 易損性の測定・評価技法実習 ＊海老名事業所 ①流通過程で発生する障害を想定し、その障害に対する製品易損性の評価手法の紹介 ②具体的事例や評価設備を用いたデモンストレーションを交えての説明	エトリア(株) エンジン開発本部 MFD開発センター 第七画像技術開発室 開発二グループ グループリーダー 包装専士 合田 秀之 氏
9/9 (水)	【3-1】 輸送環境情報と活用技術Ⅰ ー輸送試験ー ①輸送環境の実態 ②輸送環境計測の目的 ③輸送環境データの計測方法 ④輸送環境データの統計解析 ⑤解析結果の活用	前オリンパス(株) 衛生工学衛生管理者 キャリアコンサルタント 包装専士 藤井 幸則 氏
	【3-2】 輸送環境情報と活用技術Ⅱ ー合理的包装設計ー 適正包装設計の考え方と、その具体的設計手順に含まれる、輸送環境調査、衝撃強さ試験、緩衝包装設計、包装貨物試験について、その力学的背景とともに各計測データの取り扱いについて解説する。	神栄テクノロジー(株) 企画戦略本部 事業開発部 部長 工学博士 川口 和晃 氏
10/7 (水)	【4】 実地研修 輸送環境情報と活用技術Ⅲ ー航空輸送ー ＊成田空港内施設見学 ①航空貨物輸送の流れと航空機の構造・輸送環境について ②航空輸送における適切な梱包とは ③航空会社施設内のオペレーション見学	(株)JALカーゴサービス 総務部 人事企画・教育グループ マネージャー 藤嶋 里枝 氏
10/21 (水)	【5】 緩衝設計技法Ⅰ ープラスチック系ー ①プラスチック系緩衝材を使用した最適包装設計の理論とアプローチ技法 ②コストを意識した設計のポイント ③最近のCAE技術、シミュレーション技術を適用した衝撃解析技法	(株)東北ウエノ 代表取締役 包装専士 鈴木 雅彦 氏
11/6 (金)	【6】 実地研修 緩衝設計技法Ⅱーシミュレーション技法(PAOSS)ー ＊旭化成(株) 鈴鹿製造所 ①オリエンテーション ②緩衝設計のおさらい ③事前課題の受講生各自による説明 ④シミュレーション結果の解説 ⑤実落下試験の見学	旭化成(株) パフォーマンスプラス チックス事業部 フォーム製品営業部 設計ソリューショングループ長 高田 幹生 氏
11/26 (木)	【7】 緩衝設計技法Ⅲー紙系緩衝材の種類とその特性ー ①段ボール物性等の補足知識 ②紙系緩衝材の考え方 ③事例紹介	ムサシ王子コンテナ(株) 東海営業所 包装専士 海原 佑紀 氏
1/12 (火)	【8-1】 国際物流Ⅰ ー輸出包装に関する法規制と規格ー ①包装に関する法律と規格 ②包装への遵法の要求 ③海外で包装に求められる法的要求の例	ソニーグローバルマニュファクチャリング& オペレーションズ(株) 設計部門プラットフォーム技術3部 包装専士 正木 克也 氏
	【8-2】 国際物流Ⅱ ー輸出包装技法ー ①輸出梱包のための必要情報 ②輸送条件別梱包クラスの設定 ③輸出梱包設計技法 ④梱包用材料の害虫処理 ⑤輸出梱包の3R対応	NX商事(株) ロジスティクス・サポート事業部 品質管理部長 包装専士 高橋 慶 氏
1/28 (木)	【9】 事例研究 ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・ポイント・解決策を検討 ③包装設計の技術課題についてのグループ学習・発表・討議を行う	パッケージ ラボラトリー 主宰 包装専士 松田 考司 氏 三菱電機(株) 住環境研究開発センター 設計・品質技術開発部 包装専士 横山 彰久 氏
2/25 (木)	包装専士論文 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する	包装専士講座研修委員

2. 食品包装コース

月 日	教科と内容	講 師
7/3 (金)	【1】 実地研修 *雪印メグミルク(株) 阿見工場 ①乳製品製造ラインの見学 ②雪印メグミルクの包装開発の考え方 ③包装事例紹介(チーズ、マーガリン、その他乳製品の容器包装)	雪印メグミルク(株) ミルクサイエンス研究所 技術開発研究室 主査 山住 弘 氏
7/13 (月)	【2】 食品用高機能パッケージ ①食品包装に求められる機能と、主な製造方法 ②高機能パッケージの紹介	大日本印刷(株) Lifeデザイン事業部 第3ビジネスユニット開発本部 製品開発第1部 部長 大和 洋平 氏
7/30 (木)	【3-1】 食品包装と品質保持 ①食品の品質を劣化させる要因(食品成分、特性、外的環境の要因) ②食品の品質保持の工夫(食品、容器包装からのアプローチ) ③実際の食品包装への工夫・設計の例	キューピー(株) 食創造研究所 工学博士 高山 崇 氏
	【3-2】 食品包装と微生物対策 ①微生物と食中毒 ②微生物の制御方法 ③微生物制御のための包装技術	東京農業大学 農学部 教授 農芸化学博士 多田 耕太郎 氏
9/2 (水)	【4】 食品包装設計技術Ⅰー 固体・粉体包装 ー ①各種食品包装と特徴 ②食品包装の要求品質 ③食品包装設計 ④粉体食品の充填・包装 ⑤食品包装の環境取組	味の素食品(株) 技術開発部 課長 包装専士 木原 隆行 氏 味の素食品(株) 生産本部 課長 包装専士 佐藤 知意 氏
9/10 (木)	【5-1】 食品包装及び包装材料の安全性と法規制 *包装材料コースと合同 ①我が国の食品包装の安全性に関わる法規制の概要 ②食品、添加物等の規格基準 第3器具及び容器包装(昭和34年厚労省告示370号) ③ポジティブリスト未収載の新規物質の申請	一般財団法人 化学研究評価機構 高分子試験・評価センター 衛生・化学物質安全試験担当課長 環境計量士 第一種作業環境測定士 臭気判定士 渡辺 一成 氏
	【5-2】 食品メーカーにおける容器包装の安全・衛生性に対する考え方 *包装材料コースと合同 ①食品メーカーとしての考え方 ②安全衛生で留意すべき点 ③容器からの有害物質溶出への対応	カゴメ(株) 商品開発本部 新領域開発部 容器開発グループ 包装専士 加藤 道昭 氏
11/4 (水)	【6】 食品包装設計技術Ⅱー レトルト、アセプティック包装 ー ①レトルト食品と包材・容器の設計 ②レトルト食品の殺菌理論と方法 ③アセプティック包装の理論と方法	東洋製罐(株) テクニカルセンター 基盤技術開発部 主査 包装専士 山本 慎治 氏 副主査 包装専士 伊藤 裕介 氏
11/27 (金)	【7-1】 食品包装設計技術Ⅲー 包装機械・システム ー 内容を設定中	講師設定中
	【7-2】 食品包装設計技術Ⅳー 包装試験法 ー ①ライン適性 ②内容物保護性 ③保存性 ④利便性 ⑤物流適性 ⑥その他	ハウス食品グループ本社(株) 研究開発本部 容器包装開発部 部長 包装専士 小野 公裕 氏
1/13 (水)	【8】 包装デザインに対する感性評価法 *包装材料コースと合同 ①感性デザイン ②デザインの認知と感性情報 ③デザイン評価 ④感性工学 ⑤デザインと感性評価	千葉工業大学 創造工学部デザイン科学科 教授 佐藤 弘喜 氏
1/29 (金)	【9】 事例研究 容器包装設計者の視点に立ち、市場製品の分析結果を報告していただくが、グループワークによる相互評価を通して新たな視点の気づきを得て専門性の向上を目指す。また、本講座で学んだ知識をフル活用し、食品包装の設計を体験する。	(株)久原本家グループ本社 商品開発部 担当部長(容器開発担当) 包装専士 菅原 宏智 氏 キッコーマンビジネスサービス(株) 購買部 プロフェッショナル 桑垣 傳美 氏
2/26 (金)	包装専士論文 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する	包装専士講座研修委員

包装専士講座 専門教科

3. 包装材料コース

月 日	教科と内容	講 師
7/8 (水)	【1】 包装材料とコンバーティング技術 ①軟包装材を中心に包装材料の機能、役割などの説明 ②包装材料向けの印刷方式の説明 ③軟包装を中心に包装材料の生産プロセスの説明 ④サーキュラーエコノミー実現に向けた包装材料の取り組み	TOPPAN(株) 生活産業事業本部 SX推進センター SXパッケージ開発本部 本部長 小泉 文剛 氏
7/31 (金)	【2】 包装材料科学 ①高分子包装材料の基礎：1.高分子とは、2.力学的振る舞い、3.材料特性、4.集合状態が特性におよぼす影響 ② 接着の基礎：1.接着とは、2.接着の破壊形態、3.表面相互作用と接着、4.接着性能の向上には、5.性能評価	東京大学名誉教授 農学博士 小野 拓邦 氏
9/10 (木)	【3-1】 食品包装及び包装材料の安全性と法規制 *食品包装コースと合同 ①我が国の食品包装の安全性に関わる法規制の概要 ②食品、添加物等の規格基準 第3器具及び容器包装(昭和34年厚労省告示370号) ③ポジティブリスト未収載の新規物質の申請	一般財団法人 化学研究評価機構 高分子試験・評価センター 衛生・化学物質安全試験担当課長 環境計量士 第一種作業環境測定士 臭気判定士 渡辺 一成 氏
	【3-2】 食品メーカーにおける容器・包装の安全・衛生性に対する考え方 *食品包装コースと合同 ①食品メーカーとしての考え方 ②安全衛生で留意すべき点 ③容器からの有害物質溶出への対応	カゴメ(株) 商品開発本部 新領域開発部 容器開発グループ 包装専士 加藤 道昭 氏
10/22 (木)	【4】 高機能包装材料Ⅰー 軟包装ー 軟包材に使用されている各種材料について、昨今のSDGsにおける軟包装業界の動向等も踏まえながら、その特徴と包装材料としての性質について、様々な化学的知識を学ぶ。	ZACROS(株)研究所 インキュベーション センター 探索・企画グループ 席主任研究員 包装専士 小野 松太郎 氏
11/5 (木)	【5-1】 高機能包装材料Ⅱー ガラス容器ー ①ガラスびんの概要 歴史・マーケット ②ガラスびんの製造方法 ③ガラスびんの軽量化 ④ガラスびんの加飾 ⑤ガラスびんの3R	東洋ガラス(株) 生産本部 生産技術部 型・成形課 課長 金光 真一郎 氏
	【5-2】 高機能包装材料Ⅲー プラスチック剛性容器、金属容器ー ①剛性容器である金属缶、PETボトル、オレフィンボトルについて、その製造方法と主要材料(スチール材、アルミ材、塗料、PET樹脂、オレフィン樹脂、バリア材など)について	東洋製罐(株) テクニカルセンター 基盤技術開発部 メタル素材開発グループ グループリーダー 野中 周一 氏
12/2 (水)	【6-1】 高機能包装材料Ⅳー 紙容器ー ①紙素材の特徴と紙の種類 ②主な加工方法 ③主な紙容器・包装の形態 ④最近の開発事例 ⑤環境対応の取り組みと課題	日本製紙(株)紙パック営業本部 紙パックグローバル営業統括部 主席技術調査役 包装専士 野田 貴治 氏
	【6-2】 高機能包装材料Ⅴー 新包装材料ー ①ガスバリア性材料、②透過性制御材料、③バイオミメティクス材料、 ④バイオプラスチック・バイオマス材料、⑤包装材料の環境対応、 ⑥インテリジェント/アクティブ材料	(株)クレハ 樹脂加工事業所 元技術部部長 包装専士 田中 幹雄 氏
1/13 (水)	【7】 包装デザインに対する感性評価法* 食品包装コースと合同 ①感性デザイン ②デザインの認知と感性情報 ③デザイン評価 ④感性工学 ⑤デザインと感性評価	千葉工業大学 創造工学部デザイン科学科 教授 佐藤 弘喜 氏
1/14 (木)	【8】 実地研修 *日本ポリエチレン(株) 研究所&工場 ①川崎工場製造設備と研究開発部の見学 ②講演「ポリエチレン樹脂の容器包装への適用(ポリエチレン樹脂について、容器包装向け各種ポリエチレン材料のご紹介)」	日本ポリエチレン(株) 営業部営業1グループ グループマネージャー 藤森 泰輔 氏 研究開発部1グループ グループリーダー 浅川 亮介 氏
2/1 (月)	【9】 事例研究 ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策(模範解答)を解説	フタムラ化学(株) 中部統括 開発グループ グループリーダー 包装専士 花市 岳 氏 味の素(株) 食品研究所コンシューマー フーズ開発センター 包装設計グループ 包装専士 小林 義浩 氏
3/1 (月)	包装専士論文 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する	包装専士講座研修委員

4. 医薬品包装コース

月 日	教科と内容	講 師
7/9 (木)	【1】 実地研修 ＊内藤記念くすり博物館、エーザイ(株) 川島工園 ①内藤記念くすり博物館見学 ②エーザイ(株) 川島工園見学 ③講演(薬の歴史)	エーザイ(株) 内藤記念くすり博物館 館長 森田 宏 氏
7/10 (金)	【2】 医薬品包装と情報伝達技術 ①医薬品の表示に関する規制 ②直接の容器等への表示(薬機法50条各号) ③劇薬・毒薬の表示 ④一般用医薬品の表示 ⑤医療事故防止対策 に関する表示 ⑥添付文書の電子化と特定用符号等	関西医薬品協会 薬事法規研究委員会 包装・表示部会 常任委員 包装専士 伊勢本 司 氏
7/16 (木)	【3-1】 医薬品包装設計技術 ①医薬品包装の機能・役割 ②医薬品包装設計の進め方 ③医薬品包装トピックス	アステラス製薬(株) 製剤研究所 包装&デバイス研究室 主管研究員 薬学博士 田中 晃 氏
	【3-2】 医薬品包装と品質保証 ①医薬品包装とバリデーション ②包装関連の試験方法と評価	日本包装技術協会 包装技術研究所 生活者包装研究室長 包装専士 神谷 文敏 氏
9/11 (金)	【4】 医療現場および在宅医療における医薬品包装について ＊飯山赤十字病院および在宅医療現場において実地研修、講義 ①一般病院での医薬品の安全対策 ②在宅における薬剤師の関わり ③その他	日本赤十字社 飯山赤十字病院 薬剤部 副薬剤部長 滝澤 康志 氏 調剤係長 西澤 さとみ 氏
10/23 (金)	【5】 医薬品の包材選択と応用技術 ―プラスチック軟包材を中心に― ①医薬品包装に求められる機能と循環型社会の中での使命 ②包材 選択の基本(設計基礎知識、プラスチックの特性、成形加工、結晶性等) ③設計上の留意点(防湿・防気、相互作用、機能性向上技術等) ④実践課題と演習	ZACROS(株) 研究所 執行役員 研究所長 包装専士 鈴木 豊明 氏
11/13 (金)	【6】 医薬品の剤形別包装技術と応用Ⅰ ―液剤― ①医薬品包装の役割について ②医薬品の剤形別包装技術について (注射剤, 内用・外用液剤, 点眼剤, 点鼻剤)	第一三共(株) テクノロジー本部 生産統括部 平塚工場 第三製造部製造第一課 課長 包装専士 小澤 哲也 氏
12/1 (火)	【7】 医薬品の剤形別包装技術と応用Ⅱ ―固形剤― ①医薬品の包装設計と固形剤の包装形態・求められる機能 ②各種包装形態の概要や注意すべきポイント ③包装の課題や近年の話題など	シオノギファーマ(株) 工業化技術部 包装部門長 福島 厚志 氏
1/18 (月)	【8】 医療過誤防止と人間工学(容器・包装を中心に) ①人間工学概論 ②人間の情報処理とヒューマンエラー ③医療安全の製品設計と原理原則 ④人体計測からの製品適合および製品評価	玉川大学 工学部 デザインサイエンス学科 教授 三林 洋介 氏
2/2 (火)	【9】 事例研究 ①実務で遭遇する種々の技術課題を事例として提起 ②個別事例ごとに解決のための考え方・進め方・解決策を検討 ③解決のためのポイント、解決策(模範解答)を解説	富山スガキ(株) 企画制作部 係長 赤井 智昭 氏 中外製薬工業(株) 浮間工場業務グループ グループマネジャー 包装専士 友尻 吉弘 氏 大正製薬(株) 薬制部 表示管理グループ 主事 包装専士 谷村 淳一 氏
3/2 (火)	包装専士論文 各自の研究成果を包装専士論文にまとめ発表する	包装専士講座研修委員



開講式・オリエンテーション・共通教科I(合宿研修)
会 場



開講式・オリエンテーション・共通教科I(合宿研修)
研修室



2025年度 開講式



2025年度 包装専士講座受講生

包装専士講座 全体進行概念図

*1

開講式・オリエンテーション
6月4日

*2

共通教科(1、2)
6月4、5、15、16日

*3 <専門教科>

輸送包装コース
6月下旬～2月

食品包装コース
7月～2月

包装材料コース
7月～2月

医薬品包装コース
7月～2月

*4

包装専士論文発表～合否審査
2月25日～3月2日 *専門コース別に実施

*5

合格証書授与式
3月26日

包装専士
CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL

***1 開講式・オリエンテーション**

- (1) 開講式は、「湘南国際村センター」で、6月4日(木)13:00から行います。
- (2) 開講式・オリエンテーションに引き続いて共通教科1の講義に入ります。(1泊2日の合宿研修)

***2 共通教科(1、2)**

- (1) 包装専士講座受講生全員共通の教科です。4コース合同で行います。
- (2) 各講義の終了後「理解度テスト」を行います。
- (3) 共通教科1は湘南国際村センター、共通教科2は公益社団法人日本包装技術協会会議室で行います。

***3 専門教科(4コース)**

- (1) 6月下旬からは、受講申し込み時に選択した専門コースに分かれて、講義と実地研修を行います。
- (2) 講義は公益社団法人日本包装技術協会会議室又は、外部会議室で、実地研修はそれぞれの現地で行います。
- (3) 講義の終了後「理解度テスト」を行います。
- (4) 希望により他コースの講義を聴講することができます(プラスワン制度、聴講制度)。

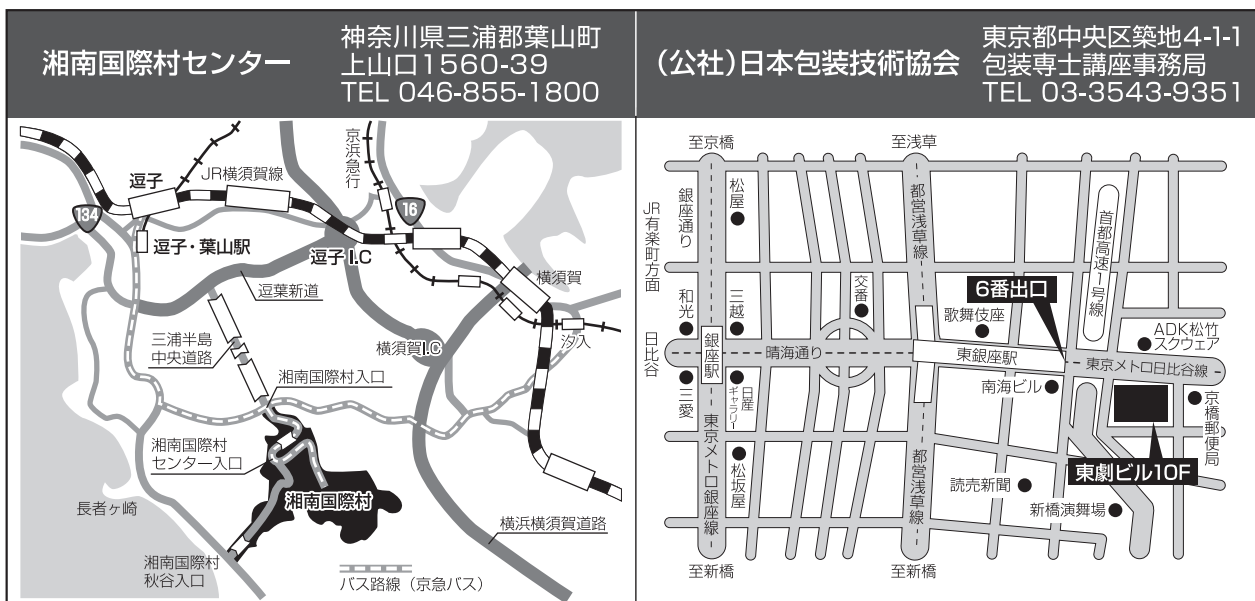
***4 包装専士論文発表～合否審査**

- (1) 共通教科1で、包装専士論文作成技法について説明します。
- (2) 各自が選定したテーマにより研究を進め、その成果を「包装専士論文」としてまとめます。
- (3) 包装専士論文発表は専門コース別に行い包装専士講座研修委員が審査します。受講生は交互に発表・聴講します。
- (4) 包装専士論文・理解度テストの結果及び出席日数を総合して、包装専士講座研修委員会が合否を判定します。併せて成績優秀者(金賞、銀賞、銅賞)を選びます。

***5 合格証書授与式**

- (1) 合格者には合格証書を授与し、＜包装専士＞(CERTIFIED PACKAGING PROFESSIONAL)の称号が与えられます。＜包装専士＞は包装技術の専門家としての証です。
- (2) 成績優秀者には表彰状並びに副賞が授与されます。

会場案内図



JR横須賀線・逗子駅又は京浜急行・逗子・葉山駅よりバス約30分

2026年度 包装専士講座企画委員

委員長	小籠	宣幸	公益社団法人日本包装技術協会 常務理事
委員	大門	徹	三菱商事パッケージング(株) 品質保証部 部長 包装専士
"	小谷	直己	TOPPAN(株) 生活・産業事業本部 SX推進センター SX事業開発本部
"	杉田	裕紀	レンゴー (株) 包装技術第一部 部長 包装専士
"	高橋	慶	NX商事(株) ロジスティクス・サポート事業部 品質管理部長 包装専士
"	山田	新	大日本印刷(株) Lifeデザイン事業部 第1ビジネスユニット 技術・開発本部 本部長
"	小野	公裕	ハウス食品グループ本社(株) 研究開発本部 容器包装開発部 部長 包装専士
"	下野	健太郎	東洋製罐(株) 営業統括室 担当課長
"	野田	貴治	日本製紙(株) 紙パック営業本部 紙パックグローバル営業統括部 主席技術調査役 包装専士
"	小澤	哲也	第一三共(株) テクノロジー本部 生産統括部 平塚工場 第三製造部 製造第一課 課長 包装専士
"	神谷	文敏	公益社団法人日本包装技術協会 包装技術研究所 生活者包装研究室長 包装専士

(敬称略)

2026年度 包装専士講座受講願書

公益社団法人日本包装技術協会 御中

※受講者の名刺を1枚同封の上、本紙をお送りください。

2026年 月 日

フリガナ 氏 名		男・女		顔写真貼付 (3×4cm)
生年月日 西暦 年 月 日 (満 歳)				
会 社 名				
所属・役職				
所 在 地 (〒 -)				
TEL ()		FAX ()		携帯 - -
E-mail				
最終学校名 (専攻:)				
職 務 歴		年 月		
*できるだけ詳細に		年 月		
		年 月		
		年 月		
		年 月		
包装関連経験年数		年 カ月	専門分野	
包装管理士取得年		年 (第 期)	包装管理士 No.	
専門コース *希望コースに○印	輸送包装コース (第39期)	食品包装コース (第40期)	包装材料コース (第39期)	医薬品包装コース (第38期)

推 薦 書

公益社団法人日本包装技術協会 御中

2026年 月 日

本受講願書に記載の者は、記載内容に相違ないことを確認し、2026年度 包装専士講座の
受講適格者であることを認め推薦致します

推 薦 者 名		TEL ()
会 社 名		FAX ()
所属・役職		
所 在 地	(〒 -)	

公益社団法人日本包装技術協会の事業案内

〔目的〕

本会は、広く包装に関する知識及び技術の普及推進に努め、生産、流通及び消費の分野における合理化を図ると共に、包装に係わる人材の資質向上に努め、もって我が国経済の発展、国民の社会生活の向上及び国際社会への貢献等、我が国の公益増進に寄与することを目的とする。

〔事業概要〕

本会は、目的を達成するため、次の事業を行う。

- ◆包装に関する調査及び研究開発
- ◆包装に関する情報資料収集、統計等及び提供
- ◆包装に関する開発と啓発
- ◆包装に関する教育の実施と人材の育成
- ◆包装に関する相談及び指導
- ◆包装に関する規格の作成、制定及びそれらの国内外への啓発活動
- ◆包装に関する内外関係機関との交流及び協力
- ◆包装に関するグローバルな活動
- ◆包装に関する展示会の開催
- ◆包装に関する書籍の出版及び販売

〔入会手続〕

入会は当協会HPよりお願い致します。なお、当会定款で定められた入会規則に基づき、次の基準を満たすとき、入会を承認します。

1. 本会の目的を承認していること。
2. 本会の規約を堅守することを承認していること。
3. 他の会員との交流親睦を積極的に行うとしていること。

〔各事業内容〕

1. 研修・交流事業

- 包装管理士講座 ●包装専士講座
- 全日本包装技術研究大会 ●各種セミナー
- 各種コース ●月例研究会 ●各種包装懇話会等

2. 交流・啓発事業

- 海外視察団 ●企業見学会等

3. 普及啓発事業

- 日本パッケージングコンテスト ●木下賞等

4. 展示会事業

- 東京国際包装展 ●暮らしの包装商品展等

5. 調査研究事業

- ISOに関する活動 ●JISに関する活動
- 包装産業統計調査等

6. 出版関連事業

- 月刊機関誌「包装技術」 ●包装に関する単行本等
- 包装産業統計調査等

	法人会員・賛助会員	個人会員
入会金	20,000円	10,000円
年会費(一口)	120,000円	45,000円



公益社団法人日本包装技術協会

本部 〒104-0045 東京都中央区築地 4-1-1
東劇ビル10階
TEL.03(3543)1189 FAX.03(3543)8970

関西支部 〒550-0014 大阪市西区北堀江 1-1-27
イマイビル 4F
TEL.06(6532)1189 FAX.06(6532)1179

中部支部 〒460-0003 名古屋市中区錦 3-5-21
錦 HOTEL ビル 3D
TEL.052(228)2930 FAX.052(228)2980

西日本支部 〒812-0034 福岡市博多区下呉服町 1-1
東北支部 日通ビル5階
TEL.092(272)5632 FAX.092(272)5635

北海道支部 〒060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目
北海道経済センタービル 6階〔北海道生産性本部内〕
TEL.011(241)8591 FAX.011(241)3898